

檀信徒各位

## 春季彼岸法要のご案内

聖名 長期予報では暖冬といわれながら、今年の冬は厳しい寒さとなりました。ようやく春らしい陽気となってまいりました。

さて、例年3月の「春季彼岸法要」を迎えることになりました。

ご多忙の折柄、恐縮乍ら、何卒万障お繰り合わせご参詣下さいますよう、ご案内申し上げます。 合 掌

平成26年3月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拜

### 記

※期 日 3月21日（金）春分の日

※時 間 午後1時より音楽法要、ご回向

午後2時より法話と歌唱指導（音楽法要の曲等）

※布教師 住職 堤 俊翁



※ご回向料

普通回向 1霊 1,000円以上

※お供え料 随意ご志納下さい。

毎日の本尊阿弥陀様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※郵便振替等で申し込まれる方も位牌型をお送り下さい。

※お袈裟をお持ちの方は着用の上、法要にご参加下さい。

# 彼岸会 (ひがんえ)

彼(か)の岸(きし)へ生まれることを願う

彼岸は、春分と秋分を中日としてその後 3 日間、菩提(ぼだい)の種を蒔(ま)く日といわれる計一週間にわたる期間をいいます。

この習慣はわが国特有のものとされ、その起源は古く、一説では聖徳太子の頃といわれます。

彼岸の中日には太陽が真東から出て、真西に沈む。太陽の真西に入る様子を見ながら、阿弥陀さまのまします西方浄土に想いを馳(は)せて、自分自身を反省するのになさわしい日とされている。

この「彼岸」とは、もともと生死流転(ししょうじるとん)する此岸(しがん)から涅槃(ねはん)の彼岸(ひがん)に到(いた)る(とう)「彼岸」のことで、到彼岸とは現実の世界(此の迷いの岸)から、理想の世界(彼のさとの岸)へ渡ることで、古代インドの原語でパーラミター(波羅蜜多)といわれます。

- この一週間は、中日の前後 3 日間に
- 布施(ふせ)(めぐみ)
- 持戒(じかい)(いましめ)
- 忍辱(にんにく)(しのび)

精進(しょうじん)(はげみ) 禅定(ぜんじょう)(しずけさ) 智慧(ちえ)(さとりの)

という「六波羅蜜(ろくはらみつ)」「六つの正しい行い」をあてはめて実践し、煩惱(ぼんのう)の川を渡り、極楽浄土へ生まれかわりたいと願う信仰実践の期間とされています。

また浄土宗で高祖(こうそ)と仰がれる中国の善導大師(ぜんどうたいし) (七世紀・唐の人)は、太陽が真東から出て真西に沈む春分・秋分の日には、「日想観(にっそうかん)」という行法(ぎょうほう)を行い、その日没の場所を極楽浄土と思つてあこがれの心を起こすべきである、ともお説きになっています。

あらゆる自然の生命が若々しく萌(も)えあがる春彼岸の時期。自然をたたえ、生命をいつくしみ、南無阿弥陀仏を称えて、今日ある自分を育んでくれた数多くの祖先の追善供養など仏事につとめ、心から先祖のご恩に感謝いたしましょう。そして、わたしたち自身の生活をもう一度反省したいものです。

# 法然さまが答える

念仏とはなにか？

**Q** 常に悪いことをせず、善を行おうと心がけて念仏を称えるのと、ただ阿弥陀仏の本願を信じて念仏するのと、どちらがよいのでしょうか？

**A** 悪を止めて善を行うのは、全ての仏の戒めです。けれども、現実の私たちは、みな、それに背いている身ですから、ただひとえに、どんな人をも救おうと願う阿弥陀仏の本願を深く信じて、南無阿弥陀仏と称えさせていただくのです。

**智慧**のある者も、ない者も、**智**戒を守っている者も戒を守れない者も区別なく、阿弥陀仏は浄土に迎えてくれるのです。このことをしっかりとお心得下さい。

# Q&A

## 絆と健康

- ※『思いやりと絆』  
女性のストレス反応  
他者を思いやり、一緒にいることは『子供の成長を支え、ストレスを和らげる』
- ※見えない他者でもストレスを和らげる  
ご先祖様、千の風になって
- ※宗教はその一躍を担っている  
あの世に対する気持ちが高いほど、生活満足度は高い

一月御忌法要布教内容

「お念仏、浄土往生、そして健康」

今村 義臣上人 西蓮寺副住職

久留米大学比較文化研究所

佐賀大学医学部神経精神科

阿弥陀仏と 申すばかりを

つとめて 浄土の莊嚴

見るぞうれしき (法然上人)

# 法然上人絵伝

第六巻第八段

法然上人の命を受け、重源、宋より五祖像を将来する

文治六年（一一九〇）二月、法然上人は、東大寺で中国伝来の浄土五祖像をかけ、「浄土三部経」の講説を行った。五祖というのは中国浄土教の祖師曇鸞大師、道綽大師、善導大師、懷感上人、少康上人の五人である。中国で浄土教を行つた人は多いが、唐や宋の時代に活躍した人々の中からこの五人を選び出し、浄土宗の法流を位置づけたのは法然上人である。

『四十八巻伝』によると、重源上人が入宋するとき、法然上人は「中国に五祖の影像がある。必ず持ち帰るように」と命じた。重源上人は方々を探した結果、法然上人がいわれた、五祖を一枚の紙に書いた影像を見つけて日本へ持ち帰つた。重源上人は、法然上人の洞察力の鋭さにびつくりし、より一層帰依の心を深めていった。

学問的な面から考えると、重源上人が浄土五祖像を将来したと確証できるものはない。それでも法

然上人が亡くなられて百年後には、二尊院に所蔵されているような浄土五祖像が描かれていたことはいうまでもない。これは敬虔な念仏信者たちに信仰を深めるためばかりでなく、浄土宗の正統性を主張するのに大いに役立つた。



## 釈尊の生涯

故郷カピラヴァストウの落日

コーシヤラ国のプラセーナジツ

ト王は釈尊に帰依し、のち釈尊の一族と親しい交わりをしたと思ひ、シヤカ族の女を自分の妃として迎えたいと申し出た。しかしカピラバストウの人たちは血統を誇っていたので、この申し出を心よしとせず、合議の結果血統の大臣マハーナーマの召使いの女を、王の一族であると欺いて申し出に応じた。この女性を母として生まれた太子ヴィドゥーダバは母の素性を知らされ復讐の心をおこす。父なきあと王位についたヴィドゥーダバは大軍を率いてカピラヴァストウへ進撃を開始した。

それを知つた釈尊はコーシヤラの軍隊を待ち受けた。そして、三たび王ヴィドゥーダバをいさめ戦火はまぬがれた。しかし、なおも軍隊を率いてカピラヴァストウに迫ろうとしたため、釈尊は王の恨みが深く到底にたち得ないことを知るとともに、かねがねシヤカ族の驕慢を戒めていたこともあつたので、王の軍隊を阻止

する事を断念されたのである。

コーシヤラの軍隊は怒濤のようにカピラヴァストウになだれこみ、ひとり残さず全滅させようとした。

マハーナーマはヴィドゥーダバ王の前に出て、「自分が池に沈んでその死骸が浮かぶまでのしばらくの間、攻撃を中止してほしい」と申し出た。

ヴィドゥーダバはこれを聞き入れたが、なかなか死骸が浮かび上がらないのでしらせると、マハーナーマは池のなかに張り出している木の根に自分の頭髪を縛つて死んでいることがわかつた。この間に難をのがれたシヤカ族は少なくなかつた。マハーナーマは釈尊の教えを奉じ、その教団に薬を提供していたほどの人であつたから、自分の生命を犠牲にしてまで多くの人の生命を救ひ得たのである。故郷カピラヴァストウが燃える光景を望見された釈尊の心はいかばかりであつたらうか。さとり輝く釈尊の臉にも聖者の涙が宿されたことであつた。



# カーラビンカ合唱団

～あなたも一緒に法要で歌いませんか？～

**毎月 第2、第4木曜日**

**9：30～11：30**

**講師：勝田 友彰先生**

**(テノール歌手)**

**伴奏：長谷川 ゆか先生**

**(ヤマハ講師)**

**会費：1500円/月**

～今までの練習曲～

花は咲く、川の流れのように、  
ふるさと、赤とんぼ、ほか多数



(入団希望、ご質問等は無量寺まで)

**団員  
募集**

**4月は無料体験を実施します**

**4月10日、24日 (木曜日)**

**9：30～11：30**

**場所：無量寺1階本堂**

**ちょっと見学、という方もぜひ！**